おんがく広場 第63号
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい 令和2年(2020)4月10日創刊
令和2年(2020) 6月28日(日)
発行・クッキー会 発行責任者・加藤良一
連絡先 rkato@max.hi-ho.ne.jp

参考になる都響の取り組み

現在、コロナ禍は小康状態ですが、自粛が解かれて以降三密を無視した気ままな行動が目立ち始めています。昨日は埼玉県大宮の夜の街でもクラスターが発生しました。

このような状況下で感染第二波の懸念もあり、政府も引き締めに苦慮しています。現在、様々な分野でガイドラインが公表され始めています。科学的なデータに基づいたものから一般論によるものなどさまざまのレベルがあります。

今回は東京都交響楽団の取り組みについて考えてみます。都響では 6 月 25 日、「**演奏会再開への行程表と指針～『COVID-19 影響下における演奏会再開に備えた試演』を受けて～**」を公表しました。6 月 11 日、12 日、本拠地の東京文化会館で「演奏会再開に備えた試演」を行った結果、演奏会再開に向けての行程表と指針を策定しました。

基本的な考え方として、ゼロリスクを求めることはできない、試演の結果から、演奏会に伴う感染リスクは比較的少ないと考えられるものの、定期的なリスク評価と十分な感染予防対策を講じる必要があると結論付けています。この結果は合唱にも十分に当てはまり大いに参考になります。以下にポイントをまとめてみます。

◆ 測定結果

トランペットやフルートなど 10 種類の管楽器と男性・女性歌手を計測した結果、最も明確にエアロゾルと飛沫が見えたのは男性歌手だった。しかし、歌い方で飛沫の飛び方は異なり、ドイツ語の歌唱ではそれほど多くなく、イタリア語の破裂音が多い曲では多くの飛沫が見えた。

歌手から 65cm の距離に計測器を置いた時は明確に見えたが、同じ歌い方で 180cm 離した際は明確には見えなかった。また女性歌手は、男性と比較して明確に少なかった。

オーボエ、トランペット、ホルン、テューバ、トロンボーン、フルート、ピッコロ、ファゴット、クラリネット、バスクラリネットの飛沫は、楽器や口元に極めて接近した際にわずかに見られ、マウスピースのみを吹いた場合には計測可能な量の飛沫が発生したが、男性歌手よりも飛沫を発生する楽器は一つもなかった。

すべての楽器で、通常の演奏時に、「人の日常会話よりも顕著に多く飛沫を放出する」とは考えにくい。つまり、演奏中のリスクは、演奏前後より顕著に高いとは考えにくい、との結果が得られました。

詳細は省きますが、今回の都響の実験は東京文化会館の舞台を使っていますので、もともとその場にあるエアロゾルや飛沫を排除できていません。従って、演奏によって発生したエアロゾルや飛沫の絶対値を知ることはできません。

この点ついては、『おんがく広場』第 61 号で紹介したクリーンルームを使う「**コロナ下の音楽文化を前に進めるプロジェクト**」の結果に注目したいところです。このプロジェクトでは、楽器や歌唱における飛沫の飛散について、バックグラウンドとなる環境の値を極力排除したデータが得られると思われます。8 月下旬に結果が公表される予定です。

◆ 演奏会再開にあたって

前述の結果に基づいて、・管楽器の飛沫計測の結果、プロ奏者が正しい奏法で演奏する限り、楽器そのものからの飛沫はほとんど確認されていないので通常のセッティングが可能。

演奏者はマスクをした方が良いが、演奏に支障がある場合は、周囲への配慮を守ればマスクをしなくても良い。・合唱との共演は、各団体・機関で実施される調査報告等を注視し、検討する、としています。

◆ 練習場、楽屋の対策及び楽員の感染予防

入室時の検温、手洗い、手指消毒、マスク装着、管楽器の結露水対策など、日常の感染防止習慣を徹底する。・指揮者とオーケストラの間に、必要に応じてアクリル板を設置することも考えられる。・ロビーや楽屋、休憩室等の狭い空間では、使用人数・時間を制限し、マスク着用の上、距離を保つ。

・会場入りの際：検温し記録、マスク着用・咳エチケット遵守、非接触体温計による検温、アルコールによる手指消毒、控室・楽屋ではお互いの距離を保つ、会話はできるだけ控える。

・舞台上で：演奏者は可能な範囲でマスク着用、咳エチケット実践、管楽器奏者は、演奏時に生じる結露水の処理を所定の吸水シートで行い、自身の手で所定のゴミ袋に廃棄する。

◆ 来場者への要請・会場での対策

チケット購入者の連絡先は販売時に把握。・マスク着用、サーモグラフィー等による検温実施、手洗い・手指消毒、来場者同士の間隔確保、大声での会話、館内での飲食は控える。・37.5℃以上の発熱、咳その他感染症状がある場合等は入場を断る。・サイン会などは当面実施しない。

合唱の練習や演奏会の開催においても参考になる内容です。